

総論

| | | | | | | | |
|-----------------------------------|------|------|--------|------|--------|-----|--------|
| 満点 | 150点 | 目標得点 | 110点 | 試験時間 | 80分 | 偏差値 | 75 |
| 大問数 | 4 | 小問数 | 80 | | | | |
| 【解答形式】 | | 選択式 | 75/80問 | 記述式 | 1/80問 | 論述式 | 4/80問 |
| 【問題難易度】 | | C | 5/80問 | B | 35/80問 | A | 40/80問 |
| ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す | | | | | | | |

Topics

- 1：大問数が昨年度より増加して4題となり、論述問題も去年の2題から4題に増加した。ただ、量は多いが難易度はさほど高くなく、一部の問題を除いてかなりの高得点が望める。
- 2：従来の1600年以降だけでなく、中世の文化も出題されるようになった。
- 3：年代配列問題の出題は恒例。一見すると正誤問題だが、年号を事実上問うている問題も多々あり、やはり年号を覚えておくことが合否を分けることとなる。

こんな力が求められる！

センターレベルの問題では9割はとれないと厳しい。正誤問題は年代関係で取れるものが多いのでセンターの過去問もやり込むことが一つの訓練となる。ちなみに、今年出題されていた地図の問題もやはりセンターの過去問などで訓練しておこう。お茶ゼミのテキストで言えば、早慶レベルの用語だけでなく、年号を徹底してつぶしていくこと。さらにテキストの地図で地名をチェックする作業をまめにしておこう。そして、授業後に、山川出版『詳説日本史』などの学校の教科書の該当部分を熟読する作業が必要である。今回の問題には教科書をそのまま引用した箇所も見受けられるし、論述問題を解くためには教科書を熟読して要点をまとめる作業を普段からしておく必要がある。より深く理解するために山川出版『詳説日本史研究』を近現代中心にさらに読み込めば、かなりいい解答が書けるようになるはずである。

参考図書

山川出版『詳説日本史』 山川出版『詳説日本史研究』

大問別分析

【I】

| | | | |
|---------------------|--|---------|-----------|
| 予想配点 | 20 / 150 点 | 時間配分の目安 | 15 / 60 分 |
| 出題分野・テーマ | 江戸の社会・経済 | | |
| 使用されている資料 | 史料 | | |
| 出題形式 | 正誤・選択・論述 (50 字) | | |
| 小問別解答と難易度 | ※問題難易度：C難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す A 3/10 B 5/10 C 2/10 問 1 (1)-5 (2 万両) C (2) (ポイント：江戸は金貨、上方は銀貨中心であることと、三貨の両替は相場で変動) B 問 2 (1) 【資料 A】-2 (桂川甫周) A 【資料 B】-6 (宮崎安貞) A 【資料 C】-7 (吉田光由) B 【資料 D】-1 (稲村三伯) C 【資料 E】-4 (鶴屋南北) A (2)-4 (浮世草子→蘭書) B 問 3 (1)-0 (待行事→開帳)・3 (梁塵秘抄→花伝書)・7 (白浪物→時代物)：B (2)-3 (将軍直属まま) B | | |
| お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 | 6 月期第 1・3 回目の講義、さらには 10 月期 4 回目の芸能史・出版ジャーナリズム史の講義と連動しているため、テキストを復習しておけばほぼ取れるところである。 | | |

●解答のポイント&学習対策等

問 1 (1) の貨幣の換算問題はやや難であるが、金貨・銀貨・銭貨それぞれの単位と相互のレートは覚えておきたい。しかも経済学部であるので、やはり貨幣・金融関係は頻出ということになる。(2) の論述問題は字数が少ないので教科書レベルの内容を要点のみ書くだけとなるので、やはり教科書の熟読が必要となる。

なお、未見史料については読めばわかるレベルなので知識問題ともいえる。

ちなみに、いつになく中世の文化がやや出題されたが、基本的なところであるので取れるはずである。慶應はテーマ史的な文化史が頻出であるので、夏期の文化史と 10 月期の講義を徹底して復習すればかなり合格が近い。

【II】

| | | | |
|---------------------|--|---------|-----------|
| 予想配点 | 27 / 150 点 | 時間配分の目安 | 20 / 60 分 |
| 出題分野・テーマ | 近代の保険・衛生と国民生活 | | |
| 出題形式 | 正誤・選択 | | |
| 小問別解答と難易度 | ※問題難易度：C難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す A 21/25 B 3/25 C 1/25 問 4 (a)-8 (邏卒) A (b)-4 (警保寮) A (c)-2 (警視庁) A (d)-7 (巡查) A (ア)-2 (司法) A (イ)-3 (内務) A (あ)-3 (大久保利通) A 問 5-4 (実施は山県有朋) B 問 6 a-1 (悲しき玩具) A b-7 (武蔵野) A c-4 (土) A d-3 (たけくらべ) A e-5 (病牀六尺) A 問 7-4 (工場法施行 1916 年) B 問 8 a-5 (ペスト菌) A b-4 (赤痢菌) A c-2 (オリザニン) A d-1 (アドレナリン) A e-3 (サルバルサン) A 問 9 (a)-4 (古賀政男) A (b)-1 (榎本健一) A (c)-2 (大佛次郎) A (d)-3 (丹下左膳) B (e)-4 (のらくろ二等兵) A (f)-5 (冒険ダン吉) C | | |
| お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 | 7 月期第 4 回の講義、さらには 10 月期の学問・思想史の講義、1 月期の文学史と連動しているため、テキストを復習しておけばほぼ取れるところである。 | | |

Benesse お茶の水ゼミナール

●解答のポイント&学習対策等

一部難問もあるが、ほとんどが基本的な文化史問題である。特に問6・9に見られる近現代の文化史、とりわけ大正・昭和の文化は頻出である。学部は違うが、法学部でもよく出題されるのであえて過去問を解いておくと類似問題が出題される可能性あり。ほぼ完答が可能なので、人名や作品を漢字で書けなくていいので組み合わせの量を覚えよう。

【Ⅲ】

| | |
|--|--------------------------|
| 予想配点 35 / 150 点 | 時間配分の目安 20 / 60 分 |
| 出題分野・テーマ 近現代の鉄鋼業 | |
| 使用されている資料 地図・表&グラフ | |
| 出題形式 正誤・選択・論述 (80 字) | |
| 小問別解答と難易度 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す A 1/14 B 12/14 C 1/14 問10-5 B 問11-4 (第一次大戦後→日露戦争後) B 問12(1)a-9 (1940年) B b-2 (1918年) B c-2 (1915年) B d-7 (1934年) B (2)ア-1 (鞍山) B イ-7 (大冶) B ウ-3 (大連) B エ-6 (上海) B 問13-4 (独禁法と金融緊急措置令など時期が誤り) B 問14(1)-3 (世銀→O E C D) A (2) (日本側の事情では減量経営、ME化自動車やハイテク製品の輸出増大。アメリカの事情では、消費拡大やドル高による生産力の停滞をあげたい。) B (3)-2 (ウルグアイ→ドーハ) C | |
| お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 夏期の近現代Ⅰと9月期の戦後史、さらには冬期の社会経済史Ⅱと連動しているので、テキストを復習しておけばほぼ取れるところである。 | |

●解答のポイント&学習対策等

グラフを使った問題は毎年出題される。やや難問だが、グラフを読み取れば解ける。問12(2)の地図問題に対応しておくために、教科書の地図をコピーしてノートに貼っておいて、事件の発生場所などをチェックしていこう。この作業をしておかないと、丸々取れないこととなる。さらに、問11と問12(1)は年号問題であり、これも頻出パターンなので年号を覚えるしかない。なお問14(2)は教科書レベルの内容を要点だけ書くこととなるので、やはり教科書の熟読が必要となる。

【Ⅳ】

| | |
|--|--------------------------|
| 予想配点 68 / 150 点 | 時間配分の目安 25 / 60 分 |
| 出題分野・テーマ 近現代北海道史と戦後経済史 | |
| 使用されている資料 史料・表&グラフ | |
| 出題形式 正誤・選択・記述・論述 (60 字)・その他 | |
| 小問別解答と難易度 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す A 15/31 B 15/31 C 1/31 問15 a-3 (探険1808年～) B b-1 (1792年) B c-2 (1804年) B 問16(1)-2 (貿易は銀貨中心) B (2) 【史料ア】-3 (日露和親条約) B 【史料イ】-5 (樺太千島交換条約) B 【史料ウ】-7 (ポーツマス条約1905年) B 問17(1) ポイントはインフレによる地租など歳入の実質減少と輸入超過による正貨保有高の減少である ろう：B (2) (米・繭などの物価下落が、多くの自作農の没落を生み、地主に土地が集中したこと、民権運動の激化をまねいたことを入れたい。) C | |

Benesse® お茶の水ゼミナール

(3)-4 (国立銀行の銀行発行権停止は1883年) B

問18(1)-3 (1995年廃止) A (2) (減反政策・自主流通米制度など) B

問19(1)a-3 (石炭) A b-2 (水力発電) A c-4 (石油) A e-1 (原子力発電) A

(2)ア-5 (1938年) A イ-1 (1946年～) A ウ-5 (1915年) A

エ-4 (1978年) A オ-3 (1973年) A カ-2 (1960年) A

キ-2 (1957年) A ケ-3 (1971年) A ケ-6 (1999年) A コ-2 (1962年) A

問20(1)-2 (国連にはかかっていない) B

(2)a-4 (1955年) B b-6 (1956年) B c-3 (1955年) B d-2 (1954年) B

お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連

9月期の戦後史、さらには1月期の北海道・沖縄史と連動しているので、テキストを復習しておけばほぼ取れるところである。

●解答のポイント&学習対策等

全体的には、この大問が一番難しい感じがするが、グラフ・年号・論述とまさに経済学部頻出パターンの象徴的問題ともいえる。問15と問16(2)、問19(2)、問20(2)は全て年号問題である。問題【4】の半分が年号で占められている。

問17の松方財政についての論述は頻出であるが、ここが書けるかが大きなポイントとなる。近年に比べると論述問題はさほど難しくはないが、細かい知識問題、やはり年号がかなり比重を占めていることとなる。ただ、全体的にみると少し偏った出し方をしているため、来年度はまた論述と正誤問題の難化が予想される。いずれにしても過去問を解いて慣れてほしい。さらに、問題量が多いので、時間配分がかなりのキーとなるので、普段解くときは少し時間を短めに設定するのがベストである。